

# 九州病害虫研究会 第 103 回研究発表会 プログラム

2024 年 2 月 9 日 (金)

会場 くまもと県民交流館パレア  
(テトリア熊本ビル 9 階および 10 階)

〒860-8554 熊本県熊本市中央区手取本町 8 番 9 号

TEL:096-344-5600

発表会場および進行予定

講演 12 分 (1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分) 質疑 2 分 (終鈴 14 分)

	10階 パレアホール	9階 会議室1
午前の部	虫害部会 No. 1 ~10	病害部会 No. 1 ~9
9:30 開始		
昼休み		
役員会 (10階 会議室8 12:30~13:30)		
総 会 (10階 パレアホール 13:35~14:05)		
午後の部	虫害部会 No. 11 ~21	虫害部会 No. 22 ~31
14:15 開始		

## 九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

HP <https://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

## 【講演にあたっての注意事項・その他】

1. 講演ファイルは必ず CD-ROM または DVD に書き込んでお持ち下さい。USB メモリは使用できませんのでご注意ください。パソコンは、予め会場に設置したものを用います。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。
2. ファイル名は「‘虫害’または‘病害’ + 講演番号 (半角 2 ケタ) + 発表者名として下さい。  
例 1：虫害会場 1 番の発表の場合 虫害 01 村田.pptx  
例 2：病害会場 25 番の発表の場合 病害 25 村田.ppt
3. 講演ファイルの受付は虫害・病害各会場で行いますので、午前・午後の開始前までにファイルの入った CD-ROM または DVD を各会場のスライド受付担当にお渡し下さい。公演中は受け付けませんので、時間厳守をお願いします。
4. スライド映写用 PC の OS は Windows10 で、PowerPoint 2016 をインストールしています。互換性の問題から図の配置や動画の再生環境が変更される可能性がありますので、講演ファイルをスライド映写用 PC へコピーした後、動作確認をお願いします。
5. 講演要旨は本会ホームページ内に掲載しておりますので印刷してご持参下さい。

### 【講演要旨の内容確認と再提出について】

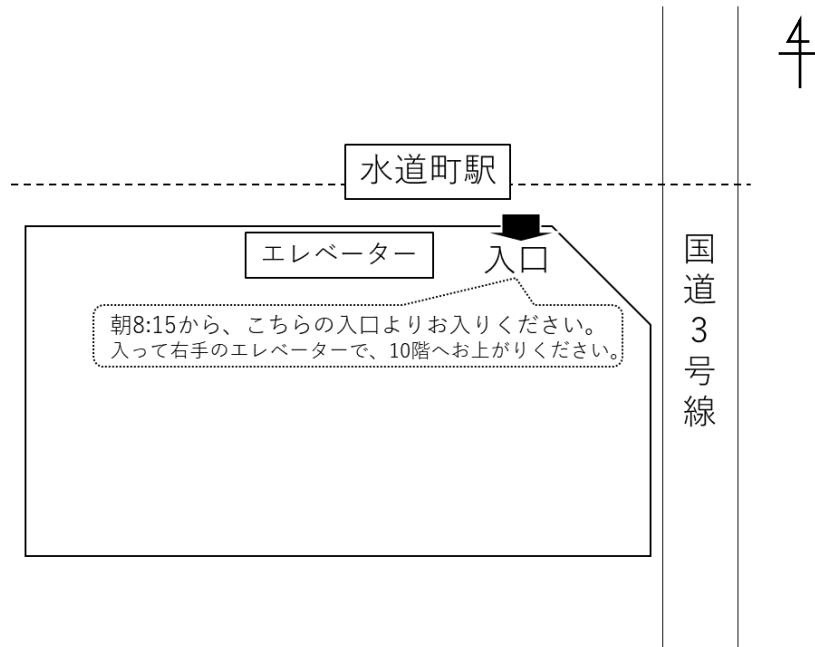
第 103 回研究発表会の講演要旨は、九州病害虫研究会報第 70 巻に掲載されます。発表者は講演要旨の内容、誤字脱字等を再度確認して下さい。特に、下記の点について確認・修正をお願いします。規定等が守られていない場合には、演題のみの掲載とします。

講演要旨の訂正が必要となった場合には、研究会終了後に訂正した講演要旨を編集幹事に再提出して下さい。再提出は電子メール添付ファイルとし、締め切りを 2024 年 2 月 23 日(金)とします。

【会場について】

受付は10階パレオホール前で9時頃より開始します。会場へは8時15分から建物に入れます。

会場では昼休みの間のみ食事して構いません。ゴミ（弁当ガラ等）は必ずお持ち帰りください。会場内の発表時間および通路等は飲み物のみOKです。  
全館禁煙です。



# 虫害第1会場

会場：くまもと県民交流館パレア（10階 パレアホール）

講演12分（1鈴10分、2鈴12分）、質疑2分（終鈴14分）

<午前部>

9:30～12:00 ※9:25 事務連絡

講演番号/ 開始時間	タイトル
1 9:30	アリモドキゾウムシ再侵入におけるハプロタイプ情報を用いた発生状況の把握 ○本間 淳 (琉球産経・沖縄病害虫防技セ・琉大農)
2 9:45	シソにおけるアザミウマ類の薬剤感受性検定と非化学的防除資材の防除効果について ○伊東拓真・伊藤玲央 <sup>1)</sup> ・平木 薫・山崎修一 (大分農林水研・ <sup>1)</sup> 大分地農課)
3 10:00	熱帯果樹アテモヤにおけるチャノキイロアザミウマの果実被害 ○上里卓己 (沖縄病害虫防除技術セ)
4 10:15	周辺環境が異なる露地カンキツ園におけるチャノキイロアザミウマの発生と被害様相 ○衛藤友紀・池田亜紀 <sup>1)</sup> (佐賀果樹試・ <sup>1)</sup> 佐賀農業セ)
5 10:30	ミカンコミバエ種群 <i>Bactrocera dorsalis</i> complex の誘殺板に対する反応性の系統間比較 ○楠本みさき <sup>1)</sup> ・本間 淳 <sup>1) 2) 3)</sup> ・久岡知輝 <sup>1) 2)</sup> ( <sup>1)</sup> 沖縄病害虫防技セ・ <sup>2)</sup> 琉球産経(株)・ <sup>3)</sup> 琉球大農)
6 10:45	ミカンコミバエ種群個体群間における交尾時間の差異 ○久岡知輝 <sup>1)</sup> ・本間 淳 <sup>1) 2)</sup> (琉球産経(株)・ <sup>1)</sup> 沖縄防技セ・ <sup>2)</sup> 琉大農)
7 11:00	鹿児島県南さつま市のタンカンでのサビダニ類の発生消長と各種薬剤の殺虫効果 ○西菜穂子・八丸珠恵 <sup>1)</sup> ・宮路克彦 <sup>2)</sup> (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 南薩地域振興局・ <sup>2)</sup> 北興化学)
8 11:15	施設中晩生カンキツ草生栽培圃場における天敵カブリダニ製剤放飼によるミカンハダニに対する防除効果 ○柴田真信 (長崎農技セ果樹)
9 11:30	宮崎県におけるトマトキバガの発生消長と2021年～2023年に採集した個体群の薬剤感受性 ○竹原剛史・後藤 弘・田爪隆太郎・椎葉駿輔 (宮崎総農試)
10 11:45	タバコカスミカメを利用した夏秋トマトにおけるコナジラミ類の防除について ○平木 薫・伊藤玲央 <sup>1)</sup> ・伊東拓真・山崎修一 (大分農林水研・ <sup>1)</sup> 大分地農課)

----- 昼休み -----

役員会(10階 会議室 8 12:30～13:30)  
総会(10階 パレアホール 13:35～14:05)

<午後の部>

14:15～ 17:00

講演番号/ 開始時間	タイトル
11 14:15	土着天敵タバコカスミカメによる害虫の定着阻止 1. 数理モデル ○浦野 知・大崎美由紀・上船雅義 <sup>1)</sup> ・安部順一郎 <sup>2)</sup> (ペコ IPM パイロット・ <sup>1)</sup> 名城大農・ <sup>2)</sup> 農研機構植防研)
12 14:30	土着天敵タバコカスミカメによる害虫の定着阻止 2. 熊本県の冬春作トマトにおける定植前放飼の事例 ○大崎美由紀・浦野 知 (ペコ IPM パイロット)
13 14:45	2023 年のダイズにおけるハスモンヨトウの数種薬剤に対する感受性 ○海口直弥・東 勇司・清水信孝 (福岡農林試)
14 15:00	佐賀県のダイズから採集したハスモンヨトウの薬剤感受性 ○古川あずさ・井手洋一 (佐賀農業セ)
15 15:15	キャベツのコナガに対する農業用ドローン散布の有効性 ○池之上祐紀・大園賢志郎・上室 剛 <sup>1)</sup> (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 鹿児島農総セ大隅)
16 15:30	鹿児島県におけるネギハモグリバエ B 系統の各種薬剤の殺虫効果と分布状況 ○内村拓人・上之園健一 <sup>1)</sup> ・西菜穂子 (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 鹿児島県大島支庁農政普及課)
17 15:45	クロラントラニリプロールのコブノメイガに対する感受性の低下 ○楠畑勇祐 (鹿児島農総セ)
18 16:00	福岡県内の複数地域から採集したイネカメムシに対するエチプロール水和剤の感受性 ○清水信孝・上村香菜子・伊丹春衣 (福岡農林試)
19 16:15	水稻を加害するスクミリンゴガイに対するメタアルデヒド剤の残効の評価 ○井手洋一・近藤知弥・古川あずさ (佐賀農業セ)
20 16:30	捕獲効率が大幅改善! 黄色粘着板を用いた水稻のウンカ類の飛来及び発生状況の把握 ○本田善之・東浦祥光 (山口農総技セ)
21 16:45	寄生者はイネウンカ類の飛翔分散に影響を与えるか?—予察灯で誘殺されたイネウンカ類とその寄生率 ○西谷光平・三田敏治 <sup>1)</sup> ・楠畑勇祐 <sup>2)</sup> (九大院生資環昆虫・ <sup>1)</sup> 九大院農昆虫・ <sup>2)</sup> 鹿児島農総セ)

# 病害会場

会場：くまもと県民交流館パレア（9階 会議室1）

講演12分（1鈴10分、2鈴12分）、質疑2分（終鈴14分）

<午前の部>

9:30～12:00 ※9:25 事務連絡

講演番号/ 開始時間	タイトル
1 9:30	大麦および小麦における赤かび病菌のかび毒蓄積様式とメタアナリシス解析 ○井上博喜・狐塚慶子 <sup>1)</sup> ・宮野法近 <sup>1)2)</sup> ・古川智宏 <sup>3)</sup> ・中川博之 <sup>4)</sup> ・久城真代 <sup>3)</sup> ・宮坂 篤 (農研機構九沖研・ <sup>1)</sup> 宮城県古川農試・ <sup>2)</sup> 現 日植防・ <sup>3)</sup> 食品研究部門・ <sup>4)</sup> 高度分析研究センター)
2 9:45	サツマイモ基腐病の感染時期および発病部位が塊根腐敗に及ぼす影響 ○阿萬祐樹・久野公子・後藤 弘・倉富文代・櫛間義幸 <sup>1)</sup> (宮崎総農試・ <sup>1)</sup> 元宮崎総農試)
3 10:00	サツマイモ基腐病に対する本圃における薬剤の体系防除の効果 ○上室 剛・中西善裕 <sup>1)</sup> ・本田 傑 <sup>2)</sup> ・西岡一也 <sup>2)</sup> (鹿児島農総セ大隅・ <sup>1)</sup> 現 鹿児島県農業大学校・ <sup>2)</sup> 鹿児島農総セ)
4 10:15	サツマイモ基腐病の防除体系におけるドローン散布およびブームスプレー散布の防除効果の比較 ○本田 傑・四藏文夫・中西善裕 <sup>1)</sup> ・上室 剛 <sup>2)</sup> ・西岡一也・西 八束 (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 現 鹿児島県農業大学校・ <sup>2)</sup> 鹿児島農総セ大隅)
5 10:30	大分県におけるピーマン斑点病菌の薬剤感受性について ○玉野井昭・祖田嘉教 <sup>1)</sup> ・古閑凛太郎 <sup>2)</sup> ・山元美祐・山崎修一 (大分農林水研・ <sup>1)</sup> 大分地農課・ <sup>2)</sup> 大分豊肥局)
6 10:45	ウンシュウミカンにおけるドローン防除体系の主要病害虫に対する防除効果 ○小嶺正敬・高見寿隆・山下次郎 (長崎農技セ果樹)
7 11:00	キウイフルーツに発生した <i>Phytophthora cinnamomi</i> による疫病（病原菌追加） ○池田亜紀・景山幸二 <sup>1)</sup> ・白石祥子 <sup>2)</sup> ・衛藤友紀 <sup>3)</sup> (佐賀果樹試（現 佐賀農試セ）・ <sup>1)</sup> 岐阜大流域研セ・ <sup>2)</sup> 佐賀農技防セ・ <sup>3)</sup> 佐賀果樹試)
8 11:15	サトウキビ新品種「はるのおうぎ」における2種さび病の発生実態について ○湯田達也・重水 剛 <sup>1)</sup> ・上門隆洋 <sup>2)</sup> ・樽本祐助 <sup>3)</sup> ・梅田 周 <sup>3)</sup> ・大久保めぐみ <sup>3)</sup> ・尾川宜広 (鹿児島農総セ大島・ <sup>1)</sup> 鹿児島熊毛支庁・ <sup>2)</sup> 鹿児島農総セ熊毛・ <sup>3)</sup> 九州沖縄農研種子島拠点)
9 11:30	チウラム・ベノミル水和剤の定植前苗散布によるサトウキビ黒腐病の効果的な処理条件の検討とその防除効果 ○安次富厚・大城 篤 <sup>1)</sup> ・比屋根真一 <sup>2)</sup> ・目取眞要 <sup>3)</sup> ・與儀喜代政・喜友名栄輝 <sup>4)</sup> (沖縄農研セ・ <sup>1)</sup> 沖縄農研セ名護・ <sup>2)</sup> 沖縄農研セ宮古島・ <sup>3)</sup> 沖縄糖農課・ <sup>4)</sup> 沖縄農研セ石垣)

----- 昼休み -----

役員会(10階 会議室8 12:30～13:30)

総会(10階 パレアホール 13:35～14:05)

## 虫害第2会場

会場：くまもと県民交流館パレア（9階 会議室1）

講演12分（1鈴10分、2鈴12分）、質疑2分（終鈴14分）

<午後の部>

14:15～ 16:45

講演番号/ 開始時間	タイトル
22 14:15	ハスモンヨトウ終齢幼虫の塩による血中Na <sup>+</sup> の差異 ○小田晴也・南川華衣・大塚悠河・龍田勝輔 <sup>1)</sup> (佐賀大農・ <sup>1)</sup> 佐賀大総分)
23 14:30	サシバエ（ハエ目：イエバエ科）の飛翔と牛の忌避行動の関係 ○藤岡龍生・浅見昂志 <sup>1)</sup> ・赤石孝太郎 <sup>1)</sup> ・児玉晴帆・井上己新・松尾和典 <sup>2)</sup> (九大共創・ <sup>1)</sup> 九大院地球社会・ <sup>2)</sup> 九大院比文)
24 14:45	チャイロコメノゴミムシダマシ ( <i>Tenebrio molitor</i> ) の産卵メカニズムの解明 ○浅井陸飛・龍田勝輔 <sup>1)</sup> (佐賀大農・ <sup>1)</sup> 佐賀大総分)
25 15:00	佐賀県唐津市の赤土におけるサツマイモネコブセンチュウの被害抑制効果 ○大島弥澄・吉賀豊司 (佐賀大農)
26 15:15	イモグサレセンチュウのニンニクへの感染経路 ○森 太・吉賀豊司・青山理絵 <sup>1)</sup> (佐賀大農・ <sup>1)</sup> 青森産技セ)
27 15:30	佐賀県の促成栽培イチゴにおけるコナジラミ類の発生要因解析 ○成富毅誌・白石祥子・善正二郎 (佐賀農技防セ)
28 15:45	施設内温度の不均一がイチゴのアザミウマ類の発生に与える影響について ○岩本哲弥・本田善之 (山口農総技セ)
29 16:00	イチゴ寄生アザミウマ類に対するジャスモメート液剤の被害低減に効果的な処理時期 ○高田裕司・櫻井民人 <sup>1)</sup> (長崎農技セ・ <sup>1)</sup> 農研機構)
30 16:15	促成栽培イチゴでのククメリスカブリダニのアザミウマに対する防除効果の実証 ○嶽本弘之 (アリストライフサイエンス)
31 16:30	トクサオカチョウジガイ ( <i>Paropeas achatinaceum</i> ) によるアスパラガスでの被害の初確認と数種殺虫剤の効果 ○音田由紀子・白石祥子・善正二郎 (佐賀農技防セ)